

教師の 腕前診断

今回のテーマ

「ねらいを持って席替え」

1 学年始めの席替え

ねらいが二つあります。一つは「教師との関係づくり」、もう一つは「知らない子同士を早く知り合いにする」ことです。

まず、「教師との関係づくり」のねらいを達成するには、次の3つのどれがいいでしょう。

Q1 学年始めの席替えでは、次の3つのどれが効果的でしょう？

- ① 自由席にする
- ② 出席番号順に座る
- ③ 元のクラス毎に座る



「②」の「出席番号」がいいでしょう。

担任は始業式が始まるまでに、子どもの名前を出席番号順に覚えておきます。始業式までには少なくとも5日はあるので、40人学級なら一日8人の名前を覚えれば始業式までに全員の名前を覚えられます。若い先生なら一日で覚えられます。

席替えの時、まず出席番号順に席替えをすることを告げます。全員を見渡しながら、席を指差し呼名します。

「二番、鈴木花子さん。」

鈴木さんは「えっ」という驚きの表情をします。教師はこの時に初めて名前と顔が一致するのですが、子どもは初対面の先生が名簿も見ずに自分の名前を呼び、しかも、顔も知っている（実際は知りません）と感じ、魔法にかかっているかのような錯覚に陥ります。

呼名する際に「全体を見渡す」ことも重要です。子どもたちは自分だけを見ていると錯覚するからです。

席に着いた鈴木さんと握手し、「よろしくね」と挨拶をします。この後も子どもの名前をずばりと言いつつ、どんどん呼名を続けます。

この方法のメリットは4月に特に感じます。身体測定、眼科検診、歯科検診等、出席番号順に並ぶことが多くあります。毎朝の健康観察も出席番号順です。出席番号順にテストを集めると成績一覧表への転記が楽になります。次に、ねらいの二つ目は、「知らない子同士を早く知り合いにする」です。

始業式の朝は登校した順に好きな席に座っています。前学年で同じクラスだった子、近所の子、同じ部活の子と並んで座っている中で、空いている席・残った席に座るなど場所や友だちに執着しない子どももいます。始業式時の人間関係が一目瞭然となります。この過去の人間関係を壊し、新しい出会いを出席番号という恣意的でない決め方をする事によって「知らない子同士が早く知り合いに」なれます。ただし、一週間後には再度席替えを行います。

2 通常の席替え

第2回目の席替えです。ねらいは「あまり親しくない子同士を親しくさせる」ことです。次の3つのどれがいいでしょう。

Q2 どのような内容を書くといいでしょう？

- ① 「ご対面」方式
- ② くじ・カード・名札
- ③ ジャンケン

どれもよい方法です。

「ご対面」方式は、まず男子全員が廊下に出て、教室には女子だけが残り席を選びます。全員の女子が席を決めたら、廊下に出ます。入れ替わるように、男子が教室に入り、席を選びます。廊下に出ていた女子が教室に入り、ご対面です。顔を合わせたとたん狂喜乱舞です。

それに対して、くじ・カード・名札は一人一人が行います。名札の場合は、裏返した名札をランダムに並べます。めくった名札の子が座っている席が新しい自分の席になります。

③の「ジャンケン」はお勧めです。これは、一人の男子と女子全員がジャンケンをして、最後まで勝ち残った女子が男子とペア（隣同士）になる、勝ち抜き方式で行います。

この方法では、「ジャンケンに勝った」ということが大切です。男女でジャンケンをする時、表面上は「隣になんたくない」という態度をとります。すると、「ジャンケンに負けちゃおう」という負のポーズを示します。ジャンケンをする子の体面は保てるでしょうが、相手

をしている男子は不愉快になります。勝ち残りなら、ゲーム感覚ですることができます。ペアが決まったら名前が書いてある磁石を黒板に貼り、二人目の男子が起立します。こうしてどんどん繰り返します。

決まったペアは児童名簿に記録しておきます。例えば、「田中君」の欄には「加藤さん」と書きます。次回の席替えは一度隣同士になった男女はジャンケンをしません。

「田中君起立。加藤さん以外の女子も起立。それでは田中君とジャンケンをして下さい。」

という風にして、多くの子と関わる機会を作ります。これは、あまり親しくない子同士を親しくさせるためです。

今度は場所を決めます。私は左記のような配置にしています。

	黒板					
	1の川 (ハート)		2の川 (スペード)		3の川 (ダイヤ)	
1列	男	女	男	女	男	女
2列	女	男	女	男	女	男
3列	男	女	男	女	男	女
4列	女	男	女	男	女	男
5列	男	女	男	女	男	女
6列	女	男	女	男	女	男

ジャンケンの主役は男子でした。そこで、今度は女子が活躍するようにします。

教卓に裏返したトランプをランダムに並べ、それを女子がひき、トランプの絵柄と数字によって席が決まります。1の川はハート、2

の川はスペード、3の川はダイヤとします。各々1〜6まで、合計18枚が並んでいます。

全員の女子がひき終わるまではトランプを見ないことにします。裏返し並べるということは自分が希望する座席を選べないということですから。だからこそ「どこになるだろう」「誰と同じ班になるのだろう」という期待感があります。ただし、視力・聴力など配慮を要する子どもの席は教師の権限で優先的に選べたり、指定席にしたりします。

全員の女子がトランプを表にしました。女子はペアの男子に場所を告げます。

「ハートの1」だから一の川の一番前だよ

こうして大移動が始まります。この時点でわかっているのは隣に誰が座るかだけです。机を所定の位置に並べると2度目の歓声が起こります。席替えの楽しさはどこに座るかではなく「誰と隣になるか」です。「ジャンケン」にすると、同じ人と隣同士にはならないので、いつも新鮮な気持ちで席替えができます。また、一の川と二の川の男女の席が交互になっているので、前後左右が異性になります。そのために、男女の関わりが多く生じます。この方法に要する時間は10〜15分ほどです。

第3回目の席替えは座る場所を交代します。

「男 女」となっている奇数列を「女 男」と偶数列を「男 女」にします。いつも同じ状態になることを回避するためです。すると、「先生は公平に対応してくれている」と信頼感が増します。

3 席替えの周期

ねらいは子どもの自立です。次の4つのど

れがよいでしょう。

Q3

席替えの周期はどれがよいでしょう？

- ① 約1月毎
- ② 学期毎
- ③ 1年間固定
- ④ その都度

答えは①の「約1月毎」です。正確に言うと4週間毎に行います。全員に班長を経験させるためです。

私は一つの班を4人で構成し、1〜4の番号をつけます。班長は、月々木曜日の曜日毎で割り振ります。そうすると、金曜日の班長がいらないことになり、第一週の金曜日の班長は1番の児童、二週は2番、三週は3番、四週は4番が班長になります。

金曜日のことを考えると5人班にすればよいのですが、奇数では班にした時に一人掛けの子どもが出てしまい、せっかく隣同士になった子と別々の班になってしまいます。

班長は会議の司会、意思決定、プリント集めなどを行います。班長を固定するとこれらの仕事を経験せずに一年を過ごす子どもが出ます。全員に班長(リーダー)を経験させたいと思っています。

先生のお手伝いも班長や日直がします。特定の子ではなく日替わりでお手伝いをするので、「ひいき」しているという誤解を受けなくともすみます。

席替えはクラスの新陳代謝を促進します。学校生活のマンネリ化を防ぎます。その周期として、4週間が最適でしょう。